

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>



### スマートキッズプラス 八潮第二

「近未来的な教室」をテーマに取り組みました。色鉛筆を中心に使って描いていき、カラフルでアイデアあふれるポスターができあがりました。

## 「発達障害の子どもたち、高学年・中学生への読み聞かせガイド」

学校図書館活用支援研究室主宰 河本利廣

### 1 はじめに

発達障害の高学年・中学生の読み聞かせに適した本の紹介は、今回が初めてです。子どもの特性に応じた本を紹介すれば、本に関心を示し、読書の楽しみを共有できると考えています。保護者や教育・支援者の皆様が実践していただき、その結果を教えていただければ嬉しいです。

### 2 高学年・中学生にも読み聞かせや本の紹介をどのように実践するか

ゲームやスマホに夢中で、本から遠ざかっている子どもたちも、今の時代の中で不安を抱え、自分の在り方に悩んでいます。本が大好きな子どももいます。本を楽しみながら、自分の生き方を模索しているのだと思います。保護者や教育・支援者の方が読み聞かせをすることにより、高学年や中学生の子どもが、登場人物の行動や考えを鮮やかにイメージし、自分の在り方を考えるきっかけを作るのだという確信をもってください。

高学年の読み聞かせは、本が分厚く、それを全部読むのは大変です。その場合は、何度も本を読み、子どもが興味をもつようにあらすじを語り、クライマックスの部分を読み聞かせすればいいですね。あまり難しく考えないで、その本のどこの部分に感激したかを自然な感じで話すといいですよ。実践しているうちに、子どもが目を輝かせて聞くようになります。頑張ってください。

### 3 発達障害のある高学年・中学生に適した読み聞かせの本の紹介

発達障害の子どもたちは、一人ひとり違う個性と得意・不得意を持っています。それぞれの子どものもつ個性により添いながら、本との出会いを大切にしたいと思います。この章では以下のような傾向がみられる子どもたちに、お勧めしたい本を紹介します。分類は便宜的なものであり、どの子どもにも共通するのは感動する本に出会った時の喜びです。思春期の子どもが共感できる本を紹介します。

#### (1) 自閉スペクトラム症(ASD)の傾向がある子どもに紹介したい本

ことばの意味を文字通り受け取ったり、強いこだわりや関心への集中が見られたりすることがあります。豊かな感性や集中力があり、素晴らしい特性を持っています。物語の展開が明確で、先のことが予感できる作品が効果的です。

#### 『太陽の子』(灰谷健次郎 理論社)

6年生のふうちゃんの心配なことはお父さんが心の病で苦しんでいることです。お母さんは「てだのふぁ おきなわ亭」という沖縄料理の食堂を営んでいます。神戸に住んでいる沖縄の人や町工場に働く人が毎晩やってきます。

ギッチョンチョンは21歳、沖縄出身の青年です。漫画と本が大好きで、沖縄を誇りにしています。沖縄の人が困っていると黙っていられない若者です。ふうちゃんはおとうさんの病気の原因が沖縄にあると思い、ギッチョンチョンの持っている本を読みました。焼け野原になっている沖縄、艦砲射撃をする船がびっしり並んでいる海、火炎放射器で焼き殺される人々、集団自決で折り重なって死んでいる人の写真を見ました。

ギッチョンチョンは、キヨシ少年を連れてきました。少年がギッチョンチョンのお金を持っていなくなりました。ふうちゃんは遠足の時に、料理屋のごみを出しているキヨシを見つけます。キヨシに足蹴りを何回も入れ

て、おきなわ亭に今晚来るように約束させます。12時になってもキヨシは来ません。翌日、キヨシは夜、裏口からやってきて、ふうちゃんに金を押しつけ、逃げだします。追いかけたふうちゃんはアキレス腱を切って、救急車で運ばれます。その時、おとうさんはおかしくなり、同じクラスの若杉とき子の家にさがしに行きます。父を見て若杉の母親は警察に通報。警官はおとうさんに手錠をかけ、精神病院に強制入院させます。おじやんは「おきなわでは心を病んでいる人を優しくする。退院させないなら、わしも一緒にいる」と頑張って五日で退院させました。若杉とき子は、ふうちゃんをひいきしている梶山先生に強情をはり、警官に「ふうちゃんのおとうさんだ」と言わなかったのです。梶山先生は、自分が教師として失格だと思いました。キヨシ少年はおきなわ亭で働くことになり、学校にふうちゃんをおぶっていきました。でも、昔の悪い仲間につけ狙われます。話は続きますがこれで終わります。あとは自分で読んでください。この本は最高傑作です。沖縄への思いと、人を思いやることの大切さ、ユーモアなどが凝縮された素敵な本です。

#### 『小公女』(バーネット 高樓方子訳 福音館)

セーラ・クルーは8歳の時にミンチン先生の経営する寄宿学校に入りました。セーラの父は大金持ちでインドに出かけ、可愛い娘をこの寄宿舎に預けたのです。11歳の誕生日に父がインドで死亡し、無一文になったことがわかりました。ミンチン先生は、豪華な部屋から3階のネズミが住んでいるひどい部屋に移しました。すべてを取り上げ、薄い黒い服を着せ、走りつかいをする下女におとしめました。12月のロンドンには、冷たい雨が降り、道はドロドロでした。食事朝、昼と食べさせず、セーラはつかいに連れ出されました。道に4ペニーが落ちていました。親切なパン屋からパンを6個買いました。でも、そばに自分より貧しい人がいました。5個をその女の子にあげて、自分は一個を食べました。つらい日々を送っているとき、朝、目を覚ますとストーブが暖かく燃え、テーブルには食事が並び、部屋は美しくなっていました。温かい食事を食べ、幸せな気持ちになりました。隣に引っ越してきたのは、父の親友のカリスフォード氏でした。財産を残し、死んでしまった親友の娘を必死に探していました。召使のラムダスはセーラが悲惨な生活をしているのを改善するように提案しました。こうして奇跡は起こったのです。そして、セーラこそが親友のクルーの娘であることが判明しました。セーラはクリスフォード氏の家に移りました。

#### 『床下の小人たち』(メアリー・ノートン 林容吉訳 岩波少年文庫)シリーズ5冊

ソフィーお婆さんは古い家の二階のベッドに寝ていました。この家には、借りぐらしの小人が住んでいました。台所の下に部屋があり、ガスも水道も小さな穴をあけて使っていました。ボッドは、借りぐらしに必要なものを取りに行く名人でした。妻のホミリーは料理が上手ですが、心配性でした。でも、いざと言うときには決断力がありました。14歳のアリエッティは、地下の暮らしに飽き飽きして、外での冒険を望んでいました。父は娘が借りに出かける時期が来たかと判断し、二人で出かけました。アリエッティは人間の子とも遭遇します。アナグマの巣に住んでいるヘンドリアおじさんに手紙を届けるよう頼みます。1週間ほどして、男の子に手紙の返事をもらいに行きました。「おまえのルービーお婆さんに帰れと言ってくれ」そんな手紙が来ました。男の子は、真夜中に台所の床をあけ、人形部屋のセットを入れてくれました。応接間にあるものも真夜中に入れてくれました。

ドライヴァお婆さんが、応接間の備品がなくなっていることに気づきました。夜、少し持ち上がっている床を開けると、ちいさな人のようなものが見え、消えました。ドライヴァお婆さんは男の子を二階の寝室に押し込め、鍵をかけました。そのあと、ネズミ捕り屋と警察とねこをよび、煙でいぶしだそうとしたのです。

怖い激しい事件がありましたが、小人たちはガス管の横を通り、野原にでて、無事に暮らし始めたのです。彼等には、いざとなったらくじけない勇気と行動力があるのです。シリーズがあります。読んでください。

#### 『天動説から地動説へ』(広瀬秀雄 国土社)ーコペルニクス伝ー

紀元前2世紀にアリストテレスとプトレマイオスは、地球は不動で、太陽や月や惑星や恒星は、透明な物質に付着して地球を廻っているという天動説を唱えました。15世紀まで深く信じられていました。1473年、コペルニクスは、ポーランドで生まれました。彼はギリシャ語を懸命に学び、ギリシャの天文学者がこの宇宙をどのように考えたかを探求しました。ギリシャには地球が動いていると考える学者が何人もいました。コペルニクスは火星などの惑星が、西から東へ逆に動くことに注目し、地球は不動のものでなく、自転し、太陽の周りを公転していることを確信しました。『天球の回転について』という論文でした。プトレマイオスは地球が自転すると、猛烈な速さになり、鳥は置いていかれ、建物はその風圧で壊れると本に書いています。コペルニクスは雲や鳥は地球に付随するものであると書いています。また、地球が1年で太陽を廻ることで、惑星の動きの不思議を解決できると言いました。でも、地動説は聖書の教えに反すると、キリスト教徒などの人々から激しく非難されました。

『ガリレオ・ガリレイ』(マイケル・ホワイト 日暮雅通訳 偕成社)

1564年イタリアで生まれます。1604年に超新星が現れ、アリストテレスの天動説に疑問を持ちました。望遠鏡を自ら作り、木星に衛星があることを発見しました。また、アリストテレスは月の表面はツルツルであるとは書いていますが、望遠鏡で見ると深い谷や高い山が見えました。彼は敬虔なキリスト教の信者であり、聖書の教えも尊重していましたが、それを文字通りに受け取るアリストテレス学派の人々を批判しました。1615年、宗教裁判にかけられました。永久に自宅軟禁となり、1641年、77歳で死ぬまでこの罪は解かれませんでした。

『オートバイ』(ロビン・ケロット 関根太郎訳 福武書店)

モーターサイクルのつくり、種類、ストロークエンジンの仕組み、どのようにエンジンが動くのか、そのメカニズムが書いてあります。車輪とタイヤがどうなっているのか、サスペンションシステムについての説明やオートバイの歴史も書いてあります。関心のある人は、ぜひ、読んでください。

『汚れちまつた悲しみに…』(中原中也 佐々木幹郎編 角川文庫)

中原中也の詩を読み、あなたはどんな感想を持ちましたか？

サーカス

幾時代かがありまして 茶色い戦争がありました  
幾時代かがありまして 冬は疾風吹きました  
幾時代かがありまして 今夜此处での一と股盛り  
サーカス小屋は高い梁 そこに一つのブランコだ  
見るともないブランコだ  
頭倒さに手を垂れて 汚れ木綿の屋蓋のもと  
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん  
その近くの白い灯が 安値いりボンと息を吐き  
観客様はみな翳 咽喉がなります牡蠣殻と  
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん



## (2) 注意欠如多動症(ADHD)の傾向がある子どもに紹介したい本

集中力の維持が難しいことがあり、衝動的な行動をすることがあります。誰もまねができないような素晴らしい発想をすることがあります。子どもにいろいろと問いかけ、感想をきいたりしながら読み聞かせをすればいいですね。

『ゴッホの絵本』(結城昌子 小学館)

ゴッホは日本の浮世絵や印象派の絵に強く影響されましたが、独自の描き方で素晴らしい絵を世に残しました。「種まく人」は働くひとが印象的です。太陽が沈み始めていますが輝いています。「糸杉と星の道」は糸杉が体をねじり、麦の穂が波のようです。星や月や空が動き始めているようです。「夜のカフェテラス」は青と黄色がとても印象的です。「アルルの部屋」はとても質素だけれど清潔な部屋で、温かみがあります。「ひまわり」は圧倒的な喜びが爆発しています。「カラスの群れが飛ぶ麦畑」は不安定なゴッホの心が伝わってくるようです。

『牛をつないだつばきの木』(新美南吉 偕成社文庫『おじいさんのランプ』に記載)

海蔵さんと利助さんは湧き水を飲みに行きました。6月の暑い日でした。帰ってくると利助さんの牛が樅の葉を食べてしまい、地主が怒っています。二人は謝りました。海蔵さんは道のそばに井戸を掘るとみんなが助かると思いました。井戸を掘る職人に聞くと30円(今の60万円)で掘れると言いました。利助さん山林で儲けたので出してくれるかどうか聞きました。「じぶんだけが飲むのではなく、他の人間も飲むのにおれが出すわけが分からん」と断りました。海蔵さんは、人力ひきの仕事をしていました。茶店で食べるぼたもちやかりんとうをがまんしてお金を貯めました。2年たち金がたまりました。

山の地主に井戸を掘る許可を依頼しましたが地主が断ります。地主はしゃっくりがとまらない病気に罹っていました。息子は「私の代になったら掘らせませう」と言います。母親に話すと、「お前は人の死ぬのを待っているのか」と叱られました。翌日、海蔵さんは「あなたの死ぬのを待っていた、井戸はいいです」と言うと、地主は「わしは今まで自分のことしか考えないで生きて来た。他人のために井戸を掘ろうとしているのは偉い」言って許可してくれました。日露戦争があり、海蔵さんはあふれる井戸の水を飲んで、兵隊に行きました。そして戦死しました。

『さかな・食べるのだいすき!』(竹内昌昭 越智直美 佐藤真紀子絵 大日本図書)

魚の上手な食べ方が書いてあります。栄養としてはタンパク質が多い。筋肉や血を作る材料になります。小魚を丸ごと食べると、カルシウムがあり、骨を丈夫にし、育ちだかりの子どもや、赤ちゃんを育てる母親に良いようです。魚を買いに行ったときに、新鮮な魚を選ぶ見方が書いてあります。魚は水の中で呼吸ができます。えらがあり、えらにはあかいくしのようなものがたくさんあり、水から酸素を取り込んでいるそうです。魚はプランクトンを食べて生きています。大きな魚に食べられます。大きな魚ももっと大きな魚に食べられます。サメなどが一番大きな魚ですが、死ぬとプランクトンに食べられます。これが食物連鎖です。

『国際宇宙ステーション』(フランクリン・M・ブランリー トウル・ケリー 小峰書店)

宇宙ステーションのことが詳しく書いてあります。宇宙服は外に出るとき必ず着ます。着ていないと気圧の違いで、体が破裂します。作業する時も足をしっかり固定します。長さは100m、30階建てのビルと同じぐらいの高さです。隕石がぶつかるなどの事故がおきると、脱出できる緊急避難船があります。室内は無重力なので空中に浮いています。寝るときは固定した寝袋で寝ます。

『セロひきのゴーシュ』(宮沢賢治 茂田井武絵 福音館)

ゴーシュは町の楽団でセロを弾いていますが、いつも指揮者に下手だと言って叱られます。真夜中まで練習していると、ねこが来て「シューマンのトロイメライを弾いてごらんなさい」と言います。「インドのとらがり」を弾き、脅かして追い出します。次に夜はかつこうがやってきて、セロと一緒にかつこうかつこうと鳴き続けました。夜明けに窓から飛び出していきました。次の夜はたぬきの子がぼうでセロを弾くのに合わせてたたきました。ゴーシュの弾き方に注文を付けて夜明けに帰っていきました。次の夜は野ネズミが、子どもをセロの中に入れてくれといえます。病気が治るといのです。演奏会がありました。成功しました。アンコールにゴーシュが選ばれました。自分を馬鹿にしているのだと思ってやけになって「インドのとらがり」を弾くと大喝采を受けました。

『鈴の鳴る道』(星野富弘 偕成社)

星野富弘の花の詩画集は、私たちに多くのことを考えさせます。車いすの生活をし、口で筆をくわえ、素晴らしい絵と詩を書きました。皆さんも読んで何を感じたかを話してください。下記は私の好きな詩と絵です。

椿の木

夕方 うちへ帰ると かあちゃんがいった 椿の木に登ってあそんだべ  
そして 坊主頭についていた 椿の黄色い花粉をふいてくれた

雨

じゃがいも畑の横の道を その子は後をつけてきた  
麦畑をすぎ 墓場の角をまがっても 緋色のスカートをゆらせ 心配そうについてきた  
「ありがとう」いえのそばで 私がいうと その子は黙って 帰って行った  
車いすの 雨に降られた日のこと

### (3) 限局性学習症(SLD)の傾向がある子どもに紹介したい本

知的発達に遅れはないにもかかわらず、特定の学習に困難のある発達障害です。文字を書くこと、読むこと、計算など、ある部分に困難があります。しかし、視覚的な理解や想像力に優れた子どもが多く、絵や音、体験から学ぶ力をもっています。絵や写真を中心に描かれた本を読み聞かせすると良いでしょう。

『ひこうせん』(ロクシー・マロン 天沼春樹訳 福武書店)

ひこうせんは、ヘリウムという環境を悪くしない燃料を使っています。音も静かです。狭い土地で離着陸ができます。やわらかい化学繊維のふくろでできています。ヘリウムを入れてふくらませます。プロペラで動きます。マストカーという車の柱につながれます。パイロットと乗客はゴンドラに乗ります。ひもが放され浮かびます。速さは300mから1000mの高さを時速40キロぐらいで飛行します。地上を歩いている人も見えます。ビルがすぐそばに見えます。スポーツ中継もできます。地上のクルーと連絡を取りながら着陸し、マストカーの柱につながれます。

『食べ物の伝来がわかる絵事典』(岡田哲監修 PHP出版)

奈良時代に大陸からシルクロードなどを通り、日本に伝わったものは、ダイコン、ネギ、ハクサイ、コメなどがあります。コロンブスがアメリカ大陸を発見して、食べ物が世界に広がりました。サツマイモ、トマト、トウモロコシ、ジャガイモなどはアメリカが原産地です。日本から世界に広がった食べ物があります。インスタントラーメン、カップ麺などです。宇宙食になっています。また、すし、とうふ、さしみ、てんぷらなど、脂肪をとりすぎる人々か

ら健康食品として人気です。明治時代になって、多くの食べ物が外国から入ってきました。カレーライス、とんかつ、コロツケ、牛なべなどです。

『スーホの白い馬』(大塚勇三再話 赤羽末吉画 福音館) 読み聞かせをしてください。

広い草原にスーホは羊を飼いながらおばあさんと暮らしています。働き者で歌がうまく、その歌は遠くまで響きました。夜、スーホが帰ってこないのがみんな心配していると白い子馬を抱いて帰ってきました。心をこめて育てたので、立派に育ちました。スーホはこの馬がかわいくてたまりませんでした。このあたりをおさめるとのさまが競馬大会をし、1等になったものは娘と結婚させるというのです。仲間にすすめられてスーホは出かけました。競馬が始まりました。先頭を走るのはスーホの白馬です。とのさまは貧乏な羊飼いを見て、娘との結婚は知らん顔をして「おまえには、金貨を3枚やる。その白い馬をおいて、さっさとかえれ」と言います。スーホは拒否しましたが、家来たちに乱暴され、友達に助けられて、やっとうちに帰りました。とのさまはみんなの前で白馬に乗ろうとしました、白馬はとのさまを振り落とし、風のように駆け出しました。家来たちは次々と矢を放ち、白馬に刺さりました。その晩、白馬はひどい傷を受け、スーホのところに帰ってきました、白馬は死に、スーホは嘆き悲しみました。夢に出てきて白馬は「あなたのそばにいたいから、自分の骨やすじを使って楽器を作ってください。」と言うのです。スーホは一心に楽器をつくりました。楽器が出来上がりました。これが馬頭琴です。スーホは白馬との楽しい思い出と悲しい話を歌に乗せ、人々に聞かせました。やがて、馬頭琴は草原じゅうに広がり、羊飼いたちは美しい音色を聞くのでした。

『おーい ぼぼんた』(茨木のり子編集委員他 福音館)

有名な詩や短歌、俳句がたくさん載っています。あなたの好きな詩はどれですか？暗唱すると楽しいですよ。私の好きな詩、短歌、俳句を載せます。

雲 山村暮鳥

おーい 雲よ ゆうゆうと 馬鹿にのんきそうじゃないか  
どこまでゆくんだ ずっと 磐城平の方までゆくんか

大ほたる ゆらありゆらりと 通りけり 小林一茶

ゆく秋の大和の国の薬師寺の 塔の上なる一ひらの雲 佐々木信綱

てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った 安西冬衛

『ALASKA』-アラスカ極北・命の地図-(星野道夫 朝日新聞社) 大型の写真集で大人向け

アラスカの素晴らしい自然を写真に写した本です。感動的です。子どもたちと、じっくり見て楽しんでください。大型の写真集をぜひ借りてください。クマ、カリブー、フクロウ、大いなる自然に圧倒されます。原住民の素朴な笑顔が美しい。

## 5 おわりに

長い航海をしてきたような気持ちで、書き終わりました。たくさんの登場人物に出会ったし、多くの世界を旅した気持ちです。本はやはり多くの示唆と人生の在り方を教えてくれるなあ、しみじみと思っています。発達障害のある子どもたちが本に関心を持ち、楽しんでくれることを願っています。保護者や教育・支援者の皆さまの感想をぜひ、聞かせてください。書き終えてほっとしています。まだ、たくさんの紹介したい本がありますが、これで終わりにします。なお、紹介した本は、すべて公共図書館で借りました。公共図書館を皆さんも活用してください。



<プロフィール>

河本 利廣 学校図書館活用支援研究室主宰

香川大学卒業後、東京都の小学校教員に赴任。読書活動を学級経営の柱とし、地域で親子読書会を続けながら、月に一度、子どもと保護者などが一堂に会し1冊の本について話し合いました。都内公立小学校、三校で校長を務めた後、学校図書館活用支援研究室を設立し、主宰として活動を続けています。また、児童文学の評論を行うとともに、「東京都小学校図書館研究会長」として、図書館の在り方やさまざまな読書の重要性とその方法を提案してきました。